



約3年前に始まった私の高校生活を、ここロービルセカンダリースクールで修了した事をととても嬉しく思っています。

私の留学の一番の目的は、生涯使える英語を学ぶ事でした。

10年生、11年生を終えて、今12年生の最終部門まで来ました。

私の英語も3年間のうちにかなり上達したと思っています。

ご存知の様に語学をマスターするという事は実際のコミュニケーションなしでは有り得ませんが、私も英語を話す事がもっともっと自然なものになって来ました。

オーストラリアでのVCE（高等学校修了認定証）の学習は、読む事、聞く事、話す事を英語でしなければなりませんでした。

時にはあまりの大変さにすべてが不可能に思える時もありましたが、今最終部門を目の前にして、獲得したものの大きさに驚きを感じています。

私のロービルセカンダリースクールでのハイライトは、何と言ってもアートです。

アートについての興味を掘り出したのは、3年間スタジオアートを教えてくれた先生でした。

地元図書館の壁画製作チームに選ばれ、新聞にも載った事は大きな自信になり、また自分にプライドを持つ事が出来ました。

限られた英語力に関係なく、私がここを離れても名前は壁画に刻まれているのです。

ジャーナリズムへの興味も湧きました。

VCE日本語と歴史を学ぶ事はとても興味深く面白いものでした。

もっと多くの本を読んでみたくなりました。

これらの科目を日本で勉強した暗記する方法とは大変異なったものでした。
もっと重要な事は、たくさんの違った国の学生達と友達になる機会を持てた事です。

彼らのバックグラウンドの違いが興味深い事だけに限らず、色々な問題を世界的な目で見える事を学ぶ事が出来ました。

世界中で何が起きているかを皆に知って欲しいと思う様になりました。

オーストラリアでの最初の年が、たぶん私が今まで生きて来た中で一番大変な1年だったと思います。何も分かりませんでした。

知っている人もいませんでした。

人々の考え方の違いや沢山のカルチャーショックに直面しました。

でもそれと同時に私にはいつもサポートしてくれる人達がいる事を知っていました。

日本の友達、両親、I C Cの方々、ロービルの友人達や校長先生を始め先生方、そしてホストファミリー。

それでもどうしても駄目な時は、日本の音楽を聴き、日本の雑誌を読んで日本にいるふりをした事もありました。

でもホームシックになったのは最初の年だけでした。

2年目、3年目は友達が沢山出来ました。

最初の年にホストファミリーの友人が言った

“友達が出来てそのうちにホストマザーを置いて出かける様になるわよ”
の言葉を今でも覚えています。

出かける友達がいない頃、週末に私を連れ出してくれたホストファミリーには本当に感謝しています。彼らは私のオーストラリアでの最初の友達です。

オーストラリアで暮らす事は、両親や友達の大切さ、日本への愛国心、他の文化を知る事の楽しさを教えてくれました。

私の周りの私を助けてくれた人達に感謝します。

今私は、沢山の涙とそれよりも沢山の笑いの後の送別会の場に立っています。

オーストラリアは私の人生を変えました。

試験が全部終わるのが楽しみです、そうしたら世界に向けて新しい挑戦をします

。